



しばた いさお 柴田 勇雄 議員

問 一括交付金の期待と懸念は

答 自由度が高まるが削減が懸念される

議員 町財政の動向について、
①一括交付金に伴う町財政への期待と懸念は。
②主要4基金（財調・減債・地域づくり・公共施設）への積み立て対応は。
③向こう3カ年の財政見通しは。

の施設整備に備えて積み立てており、今年度末に5億5000万円になる見込みです。
③向こう3カ年の財政見通しは、非常に厳しいものがあります。自主財源の確保を進めながら、経費の抑制に努め、財政健全化に取り組みます。

問 県内市町村の退職勧奨制度の実態は

とになります。
③退職勧奨を希望しない場合は、定年をもって退職となります。
④人事院勧告では、定年を段階的に65歳に引き上げることについて検討することされました。今後は、職員体制や定員管理、あるいは人事院勧告などを踏まえ検討します。

町長 ①使い道の自由度が高まるとして期待を寄せていますが、かつての三位一体改革の二の舞になることも懸念しています。
②財政調整基金は収入減や災害等不時の財政支出に備えるもので、今年度末に6億2000万円になる見込みです。
減債基金は将来の公債費増加に伴う財政指標の悪化等を防ぐため、引き続き適切な額を確保します。
地域づくり基金については、今後も寄付金等を積み立てていきます。
公共施設等整備基金は、将来



カラマツ集成材を使い建設が進む葛巻小学校の屋内運動場

問 県内全体では4割町村は6割が実施

問 TPP貿易自由化への町長の所感は

答 県内全体では4割町村は6割が実施
①町村だけに限ると6割を越える自治体において行われていると推測されます。
②今後は年金受給到達年齢が引き上げられることから、24年度には2年、26年度には3年となり、ギャップは拡大していくこと

答 参加の見直し求め連携して国へ要望
町の農業が崩壊しないように、TPPへの参加の見直しと、農業政策の推進について、県や関係団体と連携し、国に対して強く要望していきます。



あねたい はるじ 姉帯 春治 議員

問 本町の黒毛和牛の増頭対策の成果は

答 和牛繁殖1000頭の達成を目指す

議員 本町に和牛が導入されて30年になるが、増頭対策と肉牛ヘルパーへの支援策は。
町長 当町の黒毛和牛は、乳牛や日本短角牛の飼育から切り替えた農家を中心に、現在115戸で飼育されています。
町では20年度から3年間、増頭1頭あたり2万円の助成を行った結果、21年度当初は93

4頭、本年度当初は947頭まで増えています。
また、昨年3月に「葛巻町和牛繁殖1000頭必達大会」を開催し、生産農家や関係者が一堂に会し、目標達成に向けた取り組みを確認しています。
町肉牛ヘルパー組合は10年に組織され、ヘルパーは現在11人で、21年度の活動は集出荷作業566頭、引き付け作業132頭、牛舎管理23日という実績です。

問 施設は方策検討中 間伐は国動向注視

問 病院の上半期状況と経営の見通しは

生産者の高齢化や担い手不足等の課題解決に向け、肉牛ヘルパーの果たす役割は大きく、支援策等は今後検討します。

また、間伐事業についての今後の見通しは。
21年3月に寄贈された本施設は得られる発電量に対し、原料となるチップ材の購入と運搬価格を含む稼働経費が高く採算が取れないことから、年間3日程度のメンテナンスによる稼働以外は運転を休止。今後の活用策については、昨年9月に設置した「葛巻町地域エネルギー利活用調査検討委員会」で検討を行なっています。

答 減少基調ながらも計画に沿って推移

答 減少基調ながらも計画に沿って推移
上半期の状況は、入院患者数は一般病床が6014人で前年同期と比較して1509人、20割減少する一方で、療養病床は3216人で同比124人、4割増加しています。
また、外来患者数は2万1040人で同比450人、2割増加しており、患者動向など予測できない部分はありますが、今後も改革プランに沿った収支と純損益で推移するものと見込んでいます。



市場出荷に向け積み込みを行なう肉牛ヘルパー

問 木質バイオ施設と間伐事業の今後は

答 木質バイオマスガス化発電施設は、本町に適していると考え

なお、安定的な経営は医師確保が基本と認識しており、できる手だてを尽くす考えです。